要領様式第２号

吹田市議会事務局
8.3.30
受付

出張報告届

令和８年３月３０日

吹田市議会議長様

会派名　吹田党・参政党議員団

代表者氏名　後藤恭平

出張者氏名　中西勇太

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出　張　先	加西市民会館 （兵庫県加西市北条町古坂１丁目１）
期　　間	令和８年３月２８日から　３月２８日まで　１日間
出張の成果	別紙のとおり
備　　考	視察スケジュール　３月２８日（土）13：00～16:30 「コウノトリに学ぶ農・食・健康シンポジウム」 （加西市民会館３階 小ホール）

研修報告書

吹田党・参政党議員団
中西勇太

コウノトリに学ぶ農・食・健康シンポジウム

令和８年３月２８日

１　研修の背景

人口減少、担い手不足、物価上昇、子どもをはじめとする健康課題の複雑化が進む中で、自治体政策は「農」「食」「健康」「地域経済」を分断して考えるのではなく、相互に関係づけて設計することが重要である。とりわけ、有機農業や地域循環、食の質、地域への愛着や誇りは、学校給食、母子保健、福祉、産業振興、環境政策にまたがる論点であり、基礎自治体として実装可能な政策につなげる余地が大きい。
今回参加した「コウノトリに学ぶ農・食・健康シンポジウム」では、農・食・健康と地域の魅力、さらに幸せな暮らしの在り方を多面的に考える講演が行われた。
吹田市の学校給食、母子支援、環境政策、地域連携、産業・地域循環の設計に活かすことを目的に参加した。

２　研修の内容

（１）「省力化・生産性向上は有機農業だから実現できる」
講師：佐藤拓郎氏

有機農業は手間がかかり生産性が低いという固定観念を見直し、むしろ技術設計次第で省力化と収量確保、生産性向上を両立できること。家族経営の限界や地域の担い手不足を踏まえ、法人化・分業化・技術標準化によって持続可能な有機農業へ転換してきた実践。障がい者就労との連携や地域循環も視野に入れた運営を進めているとのこと。
技術面では、根からのアミノ酸吸収を重視した施肥設計、遅植え密植、水稲と大豆の輪作、紙マルチ田植機の活用、表層の管理と還元層形成による雑草抑制などにより、農薬や化学肥料への依存を下げつつ、省力化と安定生産を目指す考え方のご説明。特に、「最初から肥料は 100％有機にする」「稲が健康に育てば草は生えにくい」「常識を疑い、誰でも簡単にできる有機栽培技術を確立する」という視点は印象的であった。単に理念としての有機農業ではなく、再現可能な農業技術として地域に広げていく発想が強調されていた。
また、学校給食や教育との接続にも言及があり、食の質の改善は子どもの健康、集中力、将来的な医療費にも影響し得るとの考えが共有された。農業を「食料生産」だけでなく、教育、福祉、環境、地域コミュニティの再生につなぐ総合的な基盤として捉える視点は、自治体政策としても重要であると感じた。

（２）「地域の輝きとシビックプライド　お金と幸せの関係性」
講師：新井和宏氏
お金は幸せそのものではなく、本来は幸せに向かうための手段にすぎないこと、そして価格と価値を混同せず、自分自身の基準で価値を見出す「自分軸」を持つことの重要性。現代の資本主義ではお金が必要なところに届かず、格差や不安を生みやすい構造がある一方で、これからは価格中心の市場経済だけではなく、関係性や共感を基盤とする経済の視点が重要になること。
とりわけ印象的だったのは、「お金を使うことは投票と同じである」という考え方。誰から買うか、どの地域にお金を落とすか、どの活動を応援するかという選択そのものが、社会の在り方を形づくる。安さだけで判断するのではなく、地域の信頼関係や持続可能性、人のつながりを重視した消費や投資が、結果として地域の豊かさにつながるという指摘は、地域内循環や地産地消を考える上でも大変重要なお話しであった。
また、幸福感は年収や所有物といった比較されやすい「地位財」だけでは長続きせず、健康、愛情、自由、役割、つながりといった「非地位財」に支えられること。自治体政策に置き換えれば、単に予算を投じてサービスを供給するだけでなく、市民が地域の中で役割を持ち、誇りやつながりを感じられる状態をどうつくるかが重要。シビックプライドの醸成や地域コミュニティの再構築を考えるうえで非常に大切。

３　研修からの学びと今後への活用

第一に、有機農業は理念先行ではなく、省力化・再現性・収量確保を含めた技術体系として捉える必要性。学校給食での食材調達、近隣自治体や生産者との連携、都市近郊型の付加価値づくり等の形で、有機食材の導入を検討する。まずはモデル的な導入や特定品目から始め、残食率や満足度、調達可能性を検証しながら拡大を目指す。
第二に、農・食・健康を一体で考えること。学校給食、母子支援、子どもの健全育成、地域医療費の抑制、障がい者就労支援、環境配慮を別々に扱うのではなく、地域循環の仕組みとして接続することで、単独事業では得られない効果が期待できる。吹田市においても、地域連携とともに横断的な取り組みを進める。
第三に、地域内でお金と価値を循環させる視点。地元事業者活用、地域での購買、応援したい人や事業への支出が、まちの活力や信頼関係を育てる。行政もまた、単なる価格比較だけではなく、地域への波及効果や市民の誇り、関係性の蓄積という観点を持つことが必要。地産地消、地域経済循環、シビックプライドの醸成に直結する。
第四に、市民の幸福を支える自治体の役割。幸せは金額の大小だけで決まるものではなく、健康で、人とのつながりがあり、自分の役割を感じられる状態の中で育まれる。今後の吹田市政においても、経済合理性だけでなく、ウェルビーイング、関係性、地域への愛着、子どもたちの未来への責任といった観点を大切にしながら、政策提案や議会活動につなげていきたい。

以上